

# 全学共通教育

(1) 学修計画のために



# 1. 全学共通教育

## 〔1〕学修計画のために

皆さんは、一橋大学に入学が決まったとき、どのような夢や希望を持たれていたでしょうか。本学における4年間の勉学はその夢や希望を実現する礎となるものです。この大切な期間を有意義に過ごすためにも、しっかりとした学修計画が必要です。本章は、皆さんが主に大学の1, 2年で学ぶ共通教育について、どのように学修計画を立てればよいか、その手がかりを提供しようとするものです。

それぞれが思い描く専門分野での勉強はもちろん大切でしょう。しかし、大学教育にはもう一つ、教養教育、共通教育と呼ばれる重要な柱があります。そしてそれこそがあなたのこれからの人生を豊かにするプラスアルファの役割を果たすものだと私達は考えています。

大学によって呼び名は違いますが、全学共通教育の理念、基本的な考え方は共通していて、主に二つの目的があります。一つは各学部における専門教育を学ぶための基礎的な定まった視野を身に付けることです。そしてもう一つは、専門領域の論理や方法論にとらわれることのない幅広い視野を獲得することです。これらは異なっているように見えても、実は同じことなのです。

商学、経済学、法学、社会学のどの分野にせよ、あなたは社会で活躍できる専門的能力を身に付けたいと思っていますことでしょう。そのためには英語や他の外国語、ときには数学・情報の基礎的な力が必要になります。しかし、それだけでは十分ではありません。専門の学修を確実なものにするためには、人文・社会科学はもとより自然科学を含む総合的で幅広い知識を身に付けておく必要があります。これらは、いわば専門の基礎としての全学共通教育の役割であり、そのために共通基礎科目および総合科目として様々な科目が提供されています。

全学共通教育のそれぞれの分野は、一方で専門とは異なる固有の論理や方法論を持っています。一步進んでこれらを理解し身に付けることが、専門にとらわれない複眼的で幅広い視点を獲得することにつながり、あなたの本学における学修をさらに実り豊かなものにするでしょう。全学共通教育ではそれぞれの分野の中である程度の積み上げを可能にし、体系的に学べるように共通発展科目を設けています。そして、皆さんがどの学部にも所属されるかに関係なく、4年間を通じて全学共通教育を履修することが義務付けられていることの意味合いもこの点にあります。

もちろん全学共通教育のすべての分野で進んだ学習が行えれば理想的ですが、現実的には不可能でしょう。したがって全学共通教育においても、4年間という限られた時間の中で、分野を絞ったしっかりとした学修計画を立てる必要があります。例えば、大学で新たに学んだ言語を手がかりにその国の文化、歴史、社会について多面的に学びを深めてゆくのもよいでしょう。社会科学においても数学・統計学的手法や情報技術を必要とする場面は確実に広がっていますから、そのような力を身につけるために数学や情報科学について体系的に学ぶのもよいでしょう。また、自然科学や運動文化について広く学びたいと思う人もいれば、総合科目を含む幅広い科目群の中から自分でテーマを設定して自分なりのカリキュラムを組み立てたいと思う人もいるでしょう。全学共通教育では皆さんのこのような学びの欲求に応えられるように、多様な科目が提供されています。

選択の自由が履修上おおきく認められているのは、皆さんがそれぞれの問題関心にしたがって学修計画を立て、また専門を学ぶ中で必要と感じたことがらを随時選択して学べるようにするためです。ものを考える基盤を幅広い視野の中で養っていくために、全学共通教育を重視することは、一橋大学の教育の柱の一つであり、伝統でもあります。また、その精神は一橋の学問の中に脈々と息づき受け継がれてきています。学生の皆さんもまた新たな担い手として、一橋の「学び」の伝統を継承しながら、自らの「学び」を組み立てていくことになるのです。

履修にあたっては、皆さんが本学で勉強する4年間で何を学び、どのような力をつけたいのか、特にあなたが専門で学び身に付ける力と全学共通教育で学ぶことがらをどのように関連づけて、あなたの4年間を実り豊かなものにしていく

のか、に留意して、しっかりとした学修計画を立ててください。

この章が、そのためのお役に少しでも立てるのならば幸いです。

## 〔2〕履修のガイドライン

全学共通教育で皆さんが取得すべき単位には、すべての学生に対し指定された科目の中からの履修が義務付けられている必修科目の単位と、皆さんが自由にカリキュラムを設計して履修していく科目の単位とがあります。詳しくは別冊の「学士課程 履修ルールブック」に譲るとして、ここでは、その概要を簡単に説明します。

### （1）全学共通教育の必修単位

皆さんは3年生になるまでに次のような科目・単位を取得しなければなりません。

1. 指定された外国語科目（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語）の中から2外国語  
各8単位の計16単位
2. 1以外に、指定された外国語科目および数理情報科目の中から12単位
3. 運動文化科目のスポーツ方法 を2単位

### （2）自由選択の単位

（1）の必修科目の単位に加えて

1. 前期（1，2年生）において14単位，
  2. 後期（3，4年生）において8単位
- を取得しなければなりません。

全学共通教育科目の最低取得単位表

	外国語1	外国語2	外国語および 数理情報	運動文化	自由選択	計
1年	8単位	8単位	12単位	2単位	14単位	44単位
2年						
3年，4年					8単位	8単位

各科目区分には、選択できる科目の指定があります。詳しくは、履修ルールブックを参照してください。

### （3）全学共通教育の構成

全学共通教育として履修できる（単位に算入できる）科目は、大きく

- a) 共通基礎科目および共通発展科目
- b) 総合科目
- c) 自分が所属する学部以外の学部教育科目

に分かれます。このうち、c) の他学部科目については、学部ごとの「学修計画のために」および「履修ルールブック」を参考にしてください。また、科目によっては他学部学生に対する履修制限がある場合がありますので、学部ごとの説明に十分注意してください。

共通基礎科目と共通発展科目は、外国語、言語文化、数理情報、自然、運動文化の各分野にわかれています。次の節では、a) の共通基礎・共通発展科目を学問分野ごとに、そして最後にb) の総合科目について、学修計画の立て方、履修のガイドラインを説明します。

全学共通教育科目の構成表

	共通基礎			共通発展
	必修	外国語・数理情報 12単位	自由選択	
英語	英語 A, B,	英語	英語初級	外国語上級, 英語コミュニケーションスキルA・B
初修外国語	クラス制語学	初級A, 中級, アラビア語 初級, ギリシア語I, ラテン語I	初級B	上級(*) ギリシア語・(*), ラテン語・(*)
言語文化			(言語文化)	(言語文化)
数理情報		線型代数 A, B, 微分積分 A, B, 集合と位相, 確率 情報基礎 計算機概論		線型代数統論 ...
自然			サイエンスミニマム 生命科学基礎 ...	物理学発展 ...
運動文化	スポーツ方法			スポーツ方法 ...
総合科目			(社会科学) (人文・思想) (学際テーマ) (如水会寄附講義) 教養ゼミナール	
日本語科目および 日本事情等に関する科目			(外国人留学生のための科目)	

初修外国語で(\*)のついた共通発展科目は「外国語・数理情報」の12単位に算入される。

## [ 3 ] 分野別の履修ガイド

### ( 1 ) 外国語科目

外国語科目には、一年次の必修科目として英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語の7言語と、それ以外のアラビア語、ギリシア語、ラテン語、さらに留学生のために日本語が置かれています。

「～語クラス」とは、入学時の希望を参考に、指定されたクラスで行われる初級の必修授業を指します。この授業は、クラス以外の者は履修できません。

「英語とドイツ語を必修で学ぶが、中国語も勉強しておきたい」という場合は、どうすればよいでしょうか。

一橋大学では、三種類目もしくはそれ以上の外国語を学ぶこともできます。ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語については「初級A」が設けられています。これらは誰でも履修できます。「初級」を終えた後は、「中級」、「上級」と進むこともできます。アラビア語については「初級」、「中級」が設けられています。

二年生になると、選択する言語の種類や、習得する単位数をある程度自由に設定できるようになっています。また必修で求められる以上に履修した外国語の単位は、全学共通教育の単位として認定されます。つまり、一つの言語を深く追求することもできますし、第三、第四の言語にチャレンジすることもできるということです。

外国語初級の学修には、母語にあって幼児の頃にとくに済ませているような言語習得のプロセスを、もう一回繰り返すような面があり、時には無味乾燥とも思われるようなトレーニングが欠かせません。機械的ともいえる反復練習など、感覚的になかなか受け容れられないようなこともあるでしょう。しかし、そこを通り抜けたときに、言語を学習することの面白さが見えてくるものです。その面白さを知らなければ、外国語の学習は意味がないともいえます。この点は注意してください。

積極的かつ真剣に外国語に取り組んで、新たな世界への糸口をつかんでみませんか。

以下、外国語科目について、各科目の目的、到達のポイント、履修上の注意、学習動機別の履修モデルを説明します。

## 英 語

外国語科目の英語は、大学生としての英語の基礎を充実させ、さらなる発展への橋渡しをするための「英語（英語A・英語B）」のほか、オーラル、ライティング、リーディングなど英語の種々のスキル別に選択できる「英語」「英語」、さらに高度な英語力の養成を目的とした「外国語上級」など、各自の関心と意欲に応じて履修できる多種多様な科目が用意されています。

### TOEFL ITPについて

1年生は、入学時および冬学期の英語科主催TOEFL ITPを必ず受験すること。1年入学時のTOEFL ITPのスコアは、英語A・B、英語のプレイスメントに用いられる。1年次冬学期のTOEFL ITPのスコアは、平成24年度に英語・を履修する際のプレイスメントに用いられる。

### 1. 英語 について

平成23・22・21・20・19・18・17（2011・2010・2009・2008・2007・2006・2005）年度入学者

英語A（半期2単位）および英語B（半期2単位）を履修すること。英語（再履修/通年4単位）を履修する

ことはできません。 英語 A・英語 B の履修にあたっては細かい履修規定が定められているので、詳細については「履修ルールブック」を参照した上で正しく履修すること。

英語 A・英語 B は、「習う英語」から「使う英語」への転換に主眼を置き、英語の教養および理解・運用の基礎を充実した上で、21世紀の一橋大生にふさわしい学問的かつ実践的な英語力を着実に身につけることを目標とします。

英語 IA は、日本語との言語文化の相違に着目しつつ、英語の文章を正確に、深く、能動的に読むリーディング能力と、論理的に応答し、自身考えを正しく表現するライティング能力を養うことで、アカデミックな英語力を身につけることを目指します。

英語 B は、授業を英語で行い、リスニング能力に加えて、テキストの正確な読解に基づいて英語で主体的に自分の考えを発信するための能力を養います。

The course will be conducted in English, and is designed to help students to improve their reading skill, to learn to communicate actively in English about information, ideas and issues in the readings, and to function in a student-centered, English-speaking classroom environment.

- (1) 英語 A・英語 B とともに、各クラスの定員は原則25名とする。
- (2) 英語 A・英語 B とともに、習熟度に応じて「発展」「標準」「基礎強化」の3つのレベルのクラスを設け、履修者は各自に推奨されたレベルのクラスを受講することを原則とする。

英語 B の習熟度(レベル)である、基礎強化レベル(Lower Intermediate Level)、標準レベル(Intermediate Level)、発展レベル(Upper Intermediate Level)の概要は以下のようなものである。

The Lower Intermediate Level will focus on extracting and analyzing information and ideas, vocabulary development, and basic presentation, discussion and writing about ideas and issues in the readings.

The Intermediate Level will focus on extracting and analyzing information and ideas, organizing and summarizing information, vocabulary development, and presentation, discussion and writing about ideas and issues in the readings.

The Upper Intermediate Level will focus on extracting and analyzing information and ideas, organizing and summarizing information, critical thinking skills, vocabulary development, and presentation, discussion and writing about ideas and issues in the readings.

- (3) 英語 A は、教材として、クラスごとに教科書および副読本を指定する。
- (4) 英語 B は、それぞれのレベルごとに共通の教科書を指定する。
- (5) 平成23年度の入学生で英語 A・英語 B を履修する者は全員、平成23年度冬学期に英語科主催で実施される TOEFL ITP を受験すること。この TOEFL ITP のスコアは、次年度に履修する英語 ・ のプレイスメントに用いられる。従って、冬学期の TOEFL ITP を受験していない学生は次年度の英語 ・ を履修できなくなるので注意すること。

## 2. 英語 について

英語 A・英語 B 履修者は、英語 を必ず履修しなければなりません。

英語 は1年次に4単位を履修するのが望ましい。詳細については「履修ルールブック」を参照した上で正しく履修すること。

英語 は、英語IA・IBと同じく、習熟度に応じた三つのレベルで開講される。

平成23年度の入学生で英語 を履修する者は全員、平成23年度冬学期に英語科主催で実施されるTOEFL ITPを受験すること。このTOEFL ITPのスコアは、次年度に履修する英語 ・ のプレースメントに用いられる。従って、冬学期のTOEFL ITPを受験していない学生は次年度の英語 ・ を履修できなくなるので注意すること。

英語 は言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、英語の理解と運用の能力を養うことを目的とした科目であり、次のクラスが用意されています。

オーラル・スキル	口頭で意思や意見を表現・伝達する能力を養成するクラス。
ライティング・スキル	自分の意見や主張の概略を文章で表現する能力および、基礎的な説明文や叙述文を書く能力を養成するクラス。
LL	語学ラボラトリーで行なわれ、基礎から標準程度の音声英語を聴解する能力を養成するクラス。
リーディング・スキル	様々なジャンルの英文を読みこなす能力を養成するクラス。
海外語学研修	夏季休暇中に海外の提携校で行われる4週間のプログラムに参加し、習熟度別の少人数クラスで英語の運用能力を総合的に養成することを目指すクラス。

## 3. 英語 について

英語 は選択科目であり（「外国語・数理情報科目」に4単位まで算入できる）、2年次から履修できます。

平成23年度冬学期に英語科主催で実施されるTOEFL ITPを受験すること。

英語 は英語 よりも高度な内容を扱う科目であり、次のクラスが用意されています。

オーラル・スキル	英語で議論に参加できる聴解力と口頭表現力を養成するクラス。
ライティング・スキル	自分の意見や主張を正確な文章で表現する能力、およびより高度かつ複雑な叙述を行うための作文力を養成するクラス。
LL	語学ラボラトリーで行なわれ、基礎から標準程度の音声英語を聴解する能力を養成するクラス。
リーディング・スキル	様々なジャンルの英文を理解し鑑賞する能力、かつまたそれらを批判的に読む能力を養成するクラス。
資格試験対策	TOEFL, TOEIC, IELTSの受験準備を行うクラス。
海外語学研修	夏季休暇中に海外の提携校で行われる4週間のプログラムに参加し、習熟度別の少人数クラスで英語の運用能力を総合的に養成することを目指すクラス。

## 4. 外国語上級（英語）について


選択科目。英語 よりもさらに高度な英語の理解ならびに運用の能力を養うことを目的とする。次のクラスが用意されています。

リーディング・スキル	高度な内容をもった英文を的確に読みこなし、その文意を正確に把握することを目指すクラス。
オーラル・スキル	より複雑な内容を英語により口頭で表現する能力を養うことを目指すクラス。
ライティング・スキル	英語による高度で論理的な文章表現能力を養うことを目指すクラス。



学習動機	在学中・卒業後の長期留学の準備をしたい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B, 英語</p> <p>【2年次】英語 , 言語文化科目 (英語圏地域文化論 (イギリス)・(アメリカ))</p> <p>【3～4年次】英語 または上級英語</p> <p>「話す・聴く」技能については、ディスカッションできる程度まで、「書く」については、レポートが書ける程度まで、「読む」については、相当量の英文を正確かつ速く読める高度な力を身につけることが望ましい。留学前に自分の弱点を強化できるよう、オーラル、ライティング、リーディング、資格試験対策の各科目をバランスよく履修し、とくに聴解が苦手であればLLをさらに履修する。また言語文化科目の「英語圏地域文化論 (イギリス)」、「英語圏地域文化論 (アメリカ)」などを選択し、英語圏文化への理解を深める。英語科主催の海外語学研修に参加し、集中的に英語の勉強をするとともに英語圏での生活を経験しておく。授業とは別にTOEFLなどの受験対策として、「ネットアカデミー 2」などのCALL教材を利用し、速いスピードで聴く・読む訓練をしておく。</p>
学習動機	将来、仕事 (ex. 海外の企業、国内の外資系企業等) で、英語を日常的に用いる仕事に就きたい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B, 英語</p> <p>【2年次】英語 , 言語文化科目 (英語圏地域文化論 (イギリス)・(アメリカ))</p> <p>【3～4年次】英語 または上級英語</p> <p>「話す・聴く」技能については、プレゼンテーションやディスカッションできる程度まで、「書く」については、レポートが書ける程度まで、「読む」については、相当量の英文を正確かつ速く読める高度な力を身につけることが望ましい。英語 はオーラル、ライティング、リーディングを履修する。とくにライティングは上級の「ライティング・スキル」で高度な能力を身につけることが望ましい。また言語文化科目の「英語圏地域文化論 (イギリス)」、「英語圏地域文化論 (アメリカ)」などを選択し、英語圏文化への理解を深める。英語科主催の海外語学研修に参加し、集中的に英語の勉強をするとともに英語圏での生活を経験しておく。「ネットアカデミー 2」などのCALL教材を利用し、幅広い知識を身につけるとともに、速いスピードで聴く・読む訓練をしておく。</p>
学習動機	大学院進学を視野に入れ、専門分野で英語を活用したい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B, 英語</p> <p>【2年次】英語 , 教養ゼミ (英語圏文学・英語学関連)</p> <p>【3～4年次】英語 または上級英語, 言語文化科目 (英語圏文学 (イギリス)・英語圏文学 (アメリカ)), 英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ</p> <p>「話す・聴く」技能については、ディスカッションできる程度まで、「書く」については、レポートが書ける程度まで、「読む」については、相当量の英文を正確かつ速く読める高度な力を身につけることが望ましい。英語科主催の海外語学研修に参加し、現地で集中的に英語の勉強をするとともに視野を広げておくのがよい。4年次にはとくに英語 のリーディングや言語文化科目の「英語圏文学 (イギリス)」、「英語圏文学 (アメリカ)」などを履修し、正確なだけでなく批判的に読むための訓練を行うことが望ましい。</p>

学習動機	卒業論文やレポート作成のために、英語の文献を活用したい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B, 英語</p> <p>【2年次】英語 , 教養ゼミ (英語圏文学・英語学関連)</p> <p>【3～4年次】英語 または言語文化科目 (英語圏文学 (イギリス)・英語圏文学 (アメリカ), 英語学 (英語学概論・英語学各論)), 英米文学・英語学関連ゼミのサブゼミ</p> <p>「話す・聴く」技能については、効果的な情報収集ができる程度まで、「書く」については、パラグラフを理解する程度まで、「読む」については、英文を正確に速く読める力を身につけることが望ましい。言語文化科目の「英語圏文学」, 「英語圏文学」などを履修し、傍証の方法、出典の示し方を学ぶ。文献の探し方については、教養ゼミやサブゼミの指導教員に相談するとよい。</p>
学習動機	英語教員免許を取得したい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B, 英語 , 言語文化科目 (教職関連)</p> <p>【2年次】英語 , 言語文化科目 (教職関連), 英語科教育法</p> <p>【3～4年次】英語 , 言語文化科目 (教職関連), 英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ, 共通ゼミ (英語圏文学・英語学関連)</p> <p>どの学部 of 学生も中学・高校の英語教員免許が取得できる。教育職員免許法施行規則で定められている4つのカテゴリー「英語学」, 「英米文学」, 「英語コミュニケーション」, 「異文化理解」から最低1単位ずつ, 中学校用は計28単位, 高校用は計36単位を修めなければならないので, 1年次から計画的に履修すること。詳しくは「履修ルールブック」p.72および「学修計画ガイドブック」p.279を参照のこと。教員には海外滞在経験やバランスの取れた英語力が要求されるので, 「話す・聴く」技能については, 的確な情報収集ができる程度まで, 「書く」については, パラグラフ・ライティング程度まで, 「読む」については, 英文を正確に速く読める力を身につけておくのが望ましい。英語科主催の海外短期研修プログラムに参加し, 集中的に英語の勉強をするとともに, 英語圏での生活を経験しておくのがよい。TOEICを課されることも多いので, 「ネットアカデミー 2」などのCALL教材で勉強をしておく。</p>
学習動機	将来仕事で英語を使うかどうかはわからないが、英語圏の文化 (小説, 英語, ジャーナリズム, 音楽, 映画など) に親しみたい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B, 英語</p> <p>【2年次】英語 , 教養ゼミ (英語圏文学・英語学関連)</p> <p>【3～4年次】言語文化科目 (英語圏文学・英語学関連), 英語圏文学・英語学関連ゼミのサブゼミ, 共通ゼミ (英語圏文学・英語学関連)</p> <p>「話す・聴く」技能については, 情報収集ができる程度まで, 「書く」については, パラグラフを理解する程度まで, 「読む」については, 英文を正確に速く読める力を身につけることが望ましい。言語文化科目の「英語圏研究入門 (イギリス)」, 「英語圏研究入門 (アメリカ)」, 「英語圏地域文化論 (イギリス)」, 「英語圏地域文化論 (アメリカ)」では, 英米以外の英語圏の文化を扱う場合もあるので, シラバスによく目を通し, 履修すること。「英語圏文学 (イギリス)」, 「英語圏文学 (アメリカ)」も同様に, 広く英語圏の文学を論じ, また文学以外の表象文化を扱う場合もあるので, 先入観にとらわれず奮って参加してほしい。</p>

学習動機	英語に関心があり，英語について深く学びたい。
 効果的な履修モデル	<p>【1年次】英語 A・B，英語</p> <p>【2年次】英語 ，言語文化科目（英語学・言語学関係），教養ゼミ（英語学・言語学関係）</p> <p>【3～4年次】言語文化科目（英語学・言語学関係），共通ゼミ（英語学・言語学関係）</p> <p>まず，英語の各技能（「話す」「聴く」「読む」「書く」）を徹底的にみがき，英語そのものに十分に習熟するように努め，その上で英語学・言語学関係科目（「英語学（英語学概説）」「英語学（英語学各論）」「英語学（英語史）」「教養ゼミ」）を履修して英語についての語学的な認識と理解を得るようにする。「英語学（英語学概説）」は英語学・言語学の各分野を幅広く扱い，「英語学（英語学各論）」は英語学・言語学の特定の具体的なテーマを扱うので，これらの科目を履修することにより自分の関心の方向を発見していただきたい。後期課程では英語学・言語学関係の「共通ゼミ」において自分の関心の方向に沿ってさらに深く研究を行なうことができる。卒業後の進路としては，英語についての深い知識を生かした英語関係の教職や一般企業への就職のほかに，大学院への進学も有力な選択肢となるであろう。</p>

「英語学習支援のページ」（一橋大学英語科のホームページ）も参考にしてください。

<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~engdept/>

## ドイツ語

ドイツ語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

### （１）ドイツ語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などに対応するレベル
初級	<p>ドイツ語の基本的な文法・語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、ドイツ語ならではの表現方法に着目し、その背後にあるドイツ語的な発想（認知的枠組み）・思考・価値観・文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】日常的・身近な分野についての平易な文章なら比較的容易に読解できるようになる。</p> <p>【書く】学習した基本的文法・語彙を用いてごく簡単な内容のメールや手紙を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】ごく簡単な内容ならば口頭で表現できる。また相手が簡単な構文・語彙でゆっくり話す場合であれば理解できるようになる。</p>	600	ドイツ語技能検定試験 4 級合格程度 (ゲートA2:スタート・ドイツ語 2 程度)
中級	<p>初級では文の枠内の文法を学習した。中級では、文を超えたレベル、すなわち「談話」の中でも、ドイツ語をかなりの程度、実践・応用ができるようにする。ドイツ語圏の国々の文化・社会・歴史についての知識・理解を一層深める。</p> <p>【読む】辞書を用いて、日常・社会生活のテーマに関する比較的高度な内容・構文の文章を読解できるようになる。またウェブなどで記事の概要を把握でき、学部（大学院）での学習（研究）の際に基本的な資料を使うことができる。</p> <p>【書く】やや長めのメールや手紙を書くことができるようになる。</p> <p>【話す・聞く】ドイツ語圏の国々に旅行した際に、基本的な意思疎通ができる。日常的な話題について平易なドイツ語で明瞭に話されれば理解できるようになる。</p>	1000	ドイツ語技能検定 3 級合格程度 (ゲートB1:ドイツ語基礎統一試験程度)
上級	<p>ドイツ語を多様な状況・テキストにおいてかなり自由に使いこなせる。また大学院などで、専門研究のための文献を扱うことができるようになる。</p> <p>【読む】専門的学術書・論文など高度な内容・構文のテキストも、辞書を用いて理解できる。</p> <p>【書く】前後の文脈との整合性、文体効果を考慮しつつ、より内容の豊かな文章を書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】日常生活や社会生活についての馴染みのある話題についてならば、ほぼ支障なく口頭で意見交換、質疑応答などのコミュニケーションがとれる。</p>	3000	ドイツ語技能検定 2 級合格程度 (ゲートB2:職業ドイツ語検定試験程度)

(2) ドイツ語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門（研究・仕事）でドイツ語を活用したい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級クラス授業＋初級Bを1コマ履修。</p> <p>【2年次】中級2～3コマを履修。コミュニケーションと読解の授業をなるべくバランスよく選択する。</p> <p>【3～4年次】上級2コマ程度、およびドイツ語を扱う後期ゼミを履修。</p> <p><u>この間、1～2ヶ月の短期語学留学をすればより効果的。</u></p>
学習動機	将来ドイツ語を専門的に用いるか分からないが、旅行などでは役に立てたい。または研究や仕事の資料調査で概要を把握できるくらいにしたい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級クラス授業＋初級Bを1コマ履修。</p> <p>【2年次】中級2コマを履修。会話を重視する場合と資料調査力を重視する場合によって、コミュニケーションと読解のクラスを選択する。</p> <p>【3～4年次】上級1コマ程度、またはドイツ語を扱う後期ゼミを履修して、1～2年次で習得したドイツ語能力の向上をはかる。</p>
学習動機	ドイツ語圏の歴史や文化に興味があり、いろいろな情報に直接触れたい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級クラス授業、言語文化科目1コマ（ドイツ語圏研究入門）。</p> <p>【2年次】中級1コマ以上を履修。言語文化科目2コマ程度（ドイツ語圏文学、ドイツ語圏思想、ドイツ語圏地域文化論などのドイツ語圏関係）</p>

初修外国語のすすめ（1）

目標はスラスラ・ペラペラ？

皆さんはだれしも、「外国語がスラスラ読めたら、外国人相手にペラペラ話せたら、どんなに素晴らしいだろう」と思っていないですか？確かに、「スラスラ読める、ペラペラ話せる」ことには、いろいろな実効的効用があります。しかし、外国語を学ぶことの意義は、そういった現実的効用にのみあるのでしょうか？

人間より言語が先

「人間より言語の方が先に存在する」といわれれば、皆さんは「えっ、そんなばかな！」と思うかもしれません。確かに、言語だけがあって人間はまだいないという状況などはありませんから。でも、私達一人一人について言うなら、「言語の方が先に存在している」のが現実です。なぜなら私達は誰しも、必ずある言語の中に生まれてくるからです。そして私達は、その中に生まれてきた言語を通して現実を眺め、個々の事物を認識し、思考し、表現することを習得します。この事実が、私達と自言語との関係を規定しています。自言語とは、私達にとって「第二の自然」、私達が見たり聞いたり感じたり考えたりするやり方を、あたかも「自然な」ものであるかのように決定しているものなのです。（続）

## フランス語

フランス語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

### （1）フランス語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
初級	<p>フランス語の発音と綴り字の関係，基本的な文法や語彙を習得し，その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から，フランス語特有の表現方法に着目し，その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】日常的ないし身近な分野についての文章や，Webサイトのニュース記事の見出し・要約部分などを，辞書を引きながら独力で比較的容易に読解できるようになる。</p> <p>【書く】学習した基本文型を用いて，ごく簡単な内容を書くことができるようになる。友人にむけた短い手紙・メールを書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】自分について表現するための最低限の表現力を獲得し，日常生活で遭遇する具体的な状況において相手がゆっくり話す場合であれば，簡単なコミュニケーションができるようになる。</p>	800	仏検4級・DELTA A2程度
中級	<p>初級の学習内容を補完し（接続法半過去・大過去など），それを多様な状況のなかでよりスムーズに応用できるようになる。フランス語圏の文化について理解を深める。</p> <p>【読む】辞書を引けば，ある程度高度なテキスト（新聞記事，評論，文学作品，哲学・思想書など）を独力で理解し，必要な情報を取り出していくことができるようになる。研究でフランス語を使用するさいの最低限の基礎を習得する。</p> <p>【書く】辞書・参考書の助けを借りれば，論理的な構成をもつ4 - 5行程度の文章を書けるようになる。より表現力に富んだ比較的长度長い手紙・メールを書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】定型表現に習熟し，自分に馴染みのある内容について標準的な表現ではっきりと話されれば理解できるようになる。旅行先において簡単な問題を解決したり，自分の関心事や計画について短く説明することができるようになる。</p>	1500	仏検3級・DELTA B1程度
上級	<p>フランス語文法に十分習熟し，状況に応じてかなり自由に使いこなすことができるようになる。困難を感じることもあるが，ほとんどの場合にフランス語で対処し，問題を解決できるようになる。この段階にまで達すれば，フランス語を自分のものにできたと見え，各自の必要に応じて今後問題なく運用力を深めていくことができる。</p> <p>【読む】かなり高度なテキスト（接続法や条件法が頻出したり，フランス語特有のレトリックを含むものなど）を，それほど困難なく読解できるようになる。</p> <p>【書く】辞書・参考書の助けを借りれば，日常生活や学校・職場で必要な内容について比較的自由に表現することができるようになる。</p> <p>【話す・聞く】リラックスした状況であれば，日常生活や学校・職場で必要な内容について，適切な構文と表現で，ほぼ支障なくコミュニケーションがとれる。馴染みのない話題や複雑な議論に自在に参加するところまではいかないが，それでも話の流れの概略を追うことはできるようになる。テレビ・ニュースの概要も理解できるようになる。</p>	3000	仏検2級・DELTA B2程度

## (2) フランス語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門（研究・仕事）でフランス語を活用したい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級クラス授業（2コマ）で基礎を学ぶとともに、フランス人教師による初級Bも履修。</p> <p>【2年次】中級2コマ履修。読解とコミュニケーションをバランスよく学習できるように科目選択する。</p> <p>【3～4年次】上級2コマおよびフランス語を扱う共通ゼミを履修。この間、どこかで1ヶ月程度の短期語学留学をすればより効果的であろう。</p>
学習動機	将来フランス語を専門的に用いるか分からないが、フランス語には大変興味があり、基礎をしっかりと身につけておきたい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級クラス授業（2コマ）+初級B1コマ。</p> <p>【2年次】中級2コマ。</p> <p>【3～4年次】上級1コマを履修し、1 - 2年次で習得したフランス語能力の維持をはかる。もちろん、学習するうちに興味があった場合は、適宜履修科目数を増やせばよい。</p>
学習動機	専門的にフランス語を用いることはないが、旅行ではフランス語を活用したい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級クラス授業（2コマ）+初級B1コマ。日本人教師によるクラス授業のかわりにフランス人教師によるクラス授業を履修してもよい。</p> <p>【2年次】中級2コマ。とくにフランス人のクラスを履修し、コミュニケーション力を磨く。もちろん、余裕があれば3 - 4年次に上級を履修してもよい。</p>

## 初修外国語のすすめ（2）

## 外国語って何？

しかし、様々な言語があるということは、現実を認識し思考するやり方が、実は多数存在している、ということです。

「外国語を学ぶ」ことによって、私たちは、自国語によるのとは異なる現実の見方や考え方を習得し、それを通して私たちの「自然な」ものの見方や考え方が、必ずしも「自然」ではないことを知り、こうして私たちの「自然」を相対化することができます。外国語が開いてくれるこの新たな世界の魅力を、皆さんは既に最初の外国語を通して体験しているはずです。これから皆さんが学ぼうとしている初修外国語は、その新たな世界をさらに拡大すると同時に、最初の外国語が与えてくれたものの見方や考え方も相対化する、より複眼的な視野を開いてくれるでしょう。（続）

# 中国語

中国語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

## （１）中国語学修の目安

	到達のポイント	習得する語 彙数の目安	資格検定などで対応 するレベル
初 級	<p>一通りの中国語文法を習得し、それを運用して簡単な中国語を、聞き・話し・書くことができる。</p> <p>また、日本語や英語との比較から、中国語ならではの表現方法に着目し、その背後にある中国語的な発想（認識枠組み）について理解する。</p> <p>【読む】日常生活や身近な分野について平易に書かれた文章を、辞書を引きながら読むことができる（１時間で400字程度）。</p> <p>【書く】簡単なメールや手紙を書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】中国語の発音が正しくできる（ピンインの読み書きが正確にできる）。片言でなんとか中国を観光旅行できる会話能力。</p>	550	中国語検定4級
中 級	<p>初級で習得した文法知識の上に、節と節との関係の把握、複文や各語のもつ言い回しについて経験を積み慣れ、実用のレベルにもってゆく。日本語や英語との比較から、中国語ならではの表現方法に着目し、その背後にある中国語的な発想（認識枠組み）について一層の理解を得る。</p> <p>またテキストの読解に欠かせない中国文化、社会、歴史についての知識、理解を併せて深める。</p> <p>【読む】辞書を用いれば、新聞、雑誌記事を、構文を正確に把握しながら読むことができる。</p> <p>【書く】身近な話題について、中国語の表現方法を運用しながら作文をすることができる。</p> <p>【話す・聞く】日常生活や学校・職場で必要な中国語を理解し、自己表現を行う初歩的な能力を身につける（留学等に必要最低限の会話能力）。</p>	1200	中国語検定 3 級 HSK3～4級相当
上 級	<p>テキストの背後にある中国固有の歴史的、社会的文脈を理解し、それらをふまえて文章を理解し、あるいは自己表現を行う初歩的な能力を身につける。この段階まで達すれば、中国語を自分のものにできたことになる。後は加速度的に運用力が増す。</p> <p>【読む】学术论文、文学表現など高度なテキストを、辞書を引きながら読解できる基礎的な能力が身についている。</p> <p>【書く】複文や定型的表現を応用して、論理性を備えた文章を書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】議論の場において、その流れを把握し、自らの見解を論理的に表現できる。</p>	2500	中国語検定2級or準1級 HSK5～6級相当



## (2) 中国語履修案内

学習動機	将来仕事で中国語を使いたい（プロの通訳、翻訳家以外） 到達のポイント＝上級レベルの達成（各分野において）
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業（週2コマ1年）、初級B（週1コマ1年） 【2年次】中級（週2～3コマ） 【3～4年次】上級（1年あたり週2コマ以上） ＊短期留学は不可欠。長期（1年間）留学が望まれる。 ＊2年次以降は、「読む」「書く」「話す」「聞く」の各分野の授業をバランスよく履修する。
学習動機	大学院進学，研究者として中国語を使用したい。 到達のポイント＝上級レベルの「読む」「書く」を主として達成
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業（週2コマ1年）、初級B（週1コマ1年） 【2年次】中級（講読の授業を中心に週2～3コマ） 【3～4年次】上級（講読の授業，作文の授業を，それぞれ1年あたり週1コマ以上） ＊短期留学がプラスされることが望ましい。
学習動機	中国に滞在（駐在）する際に，日常生活にはほぼ困らないレベルになりたい。 到達のポイント＝中級レベルの「話す」「聞く」を主として達成
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業（週2コマ1年）、初級B（週1コマ1年） 【2年次】中級（会話の授業と講読の授業をそれぞれ週1コマ以上） ＊短期留学がプラスされるならばより効果的。 ＊2年次終了までに到達したレベルを維持・向上させるため，3，4年次にも引き続き，上級（会話の授業を主に，1年あたり週1コマ以上）を履修することが必要。
学習動機	卒業論文やレポート作成のために中国語の新聞・雑誌記事を活用したい場合。 到達のポイント＝中級レベルの「読む」を主として達成
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業（週2コマ1年） 【2年次】中級（講読の授業を中心に，週2コマ以上）
学習動機	卒業論文やレポート作成のために中国語の新聞・雑誌記事に加え学術論文を活用したい場合。 到達のポイント＝上級レベルの「読む」を主として達成
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業（週2コマ1年） 【2年次】中級（講読の授業を中心に週2コマ以上） 【3～4年次】上級（講読中心の授業を1年あたり週1コマ以上）
学習動機	中国を（バック旅行でなく）個人旅行したい。／将来，中国語の学習が必要になった時に自習できるレベルにしておきたい。 到達のポイント＝初級レベルを達成
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業（週2コマ1年） 【2年次】中級（講読の授業を中心に週1コマ1年）

## ロシア語

ロシア語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

### （１）ロシア語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
初級	<p>ロシア語の文字と発音を正しく理解し、基本的文法事項や語彙の学習を通して、ロシア語の基礎学力を身に付ける。</p> <p>1) アクセントを判断して正しく読み上げることができる。</p> <p>2) 基本的なロシア語文を聴き取って正しく書くことができる。</p> <p>3) 辞書を円滑に活用することができる。</p> <p>4) ロシア語による簡単な自己紹介程度の聴き取り、作文、会話ができるようになる。</p> <p>5) パソコンを活用して、ロシア語の入力やインターネットでの簡単な検索ができるようになる。</p>	400	ロシア語能力検定4級： 文字と発音、格変化、動詞の時制、日常的な内容の文章を日本語にする、やさしい日常表現をロシア語にする、力点のあるロシア語テキストを読み上げる
中級	<p>ロシア語をより高いレベルで活用するために、名詞格変化への理解を深め、ロシア語動詞の用法を詳しく学習する。それによって、さまざまなトピックのロシア語文を読んだり、自分で表現できるようになる。</p> <p>1) ロシア語に独特な文法特徴を理解し、それらを用いた表現ができる。</p> <p>2) 簡単な複文の構築法を習得し、それによってさまざまなトピックについて自分の考えをある程度表現できるようになる。</p> <p>4) 辞書を利用すれば、インターネットによって配信されるロシア語のニュースなどについて、その概要が理解できるようになる。</p> <p>7) ロシアを旅行した際に、基本的な意思疎通が可能になる。簡単な手紙やメール文を書くことができるようになる。</p>	800	ロシア語能力検定3級～2級： 数詞（主格）、比較級・最上級、移動の動詞、関係代名詞の一部など、平易な文の日本語訳、日常生活で使うやや長い表現のロシア語訳、ゆっくりとしたテンポのロシア語テキストの聴取、力点のないロシア語テキストを読み上げる、与えられた身近なテーマで話を展開する、一般向けの読み物や新聞・雑誌記事などを訳す
上級	<p>より専門的なロシア語テキストの内容を理解し、さまざまなトピックについてロシア語で意見を述べたり、対話したりできるようになる。そうした運用能力の獲得により、ロシアの歴史、文化に対する理解を深める。</p> <p>1) ロシア語のいろいろなスタイルについて理解が深まり、さまざまなジャンルの文を読みこなしたり、表現ができるようになる。</p> <p>2) 大学院などの専門的な研究において、ロシア語をある程度活用し、新しい情報を得たり、知見を深めたりすることができる。</p> <p>3) ロシアの歴史・文化、現代社会の様子などについて、ロシア語によってさまざまな情報が検索できる。</p> <p>4) 雑誌の評論やテレビのニュース番組などについて、だいたいの内容が理解できるようになる。</p> <p>5) ロシア語能力を生かして、自分なりのロシア旅行を計画し、実行することができる。</p>	2000	ロシア語能力検定2級～1級： 日常会話レベルの話が理解できる、さまざまな分野の事柄を平易なロシア語に訳す、すべての文法事項のチェック、さまざまな分野の文章を訳す、一般教養の範囲内のやや高度な内容の事柄を正確なロシア語に訳す、ノーマルスピードでやや高度な話も理解できる、与えられたテーマでロシア語を話す。

## (2) ロシア語履修案内

学習動機 ↓	日本ではあまり触れることのないロシア語がどんな言葉なのか勉強してみたい。できればロシア人と話したり、ロシアに行ったりしてみたい。
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 + 初級 B1 コマ履修 【2年次】中級 2 コマ以上を履修（日本人担当 1 コマ + ネイティブ担当 1 コマなど）
学習動機 ↓	ロシア語を専門にするわけではないが、将来就職した際に何らかの形で役立てたい。
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 + 初級 B1 コマ履修 【2年次】中級 3 コマ履修（日本人担当 2 コマ + ネイティブ担当 1 コマなど） 【3年次】上級 1 コマ以上履修
学習動機 ↓	大学院進学や、長期留学を希望し、専門的にロシア語を活用していきたい。
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 + 初級 B1 コマ履修 【2年次】中級 3 コマ履修 【3～4年次】上級 2 コマ履修、ロシア語を扱う共通ゼミを選択することも可
学習動機 ↓	スラヴの歴史や文化に興味があり、いろいろな情報に直接触れたい。
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業、言文科目 1 コマ履修（スラブ研究入門） 【2年次】中級 1 コマ以上を履修、言文科目 2 コマ履修（各国文学論・ロシア文学、世界の言語入門・セルビア語など）

## 初修外国語のすすめ (3)

新しい出会いのために.....

皆さんがこれから優秀な学生として、また将来有能な職業人あるいは研究者として、さらには豊かな教養を備えた魅力的な人物として、育って行くために必要なことは何でしょうか？誰か権威のある人の意見をたくさんおぼえて、それをオウムのように繰り返すことでしょうか？むしろ、現実を自分の頭で考え、判断して、自身の言葉で語ることができる、ということではないでしょうか？しかし、このような力（感性と理性、言語表現能力）は、誰でもあれ生得的に備わっているものでも、また自然に育ってくるものでもありません。もっとも広い意味での他者との数多くの出会いを通して、驚き、傷つき、感動し、反発し、共感し、批判し、自己を振り返って反省し... という体験を通して培われるものです。そして、そのような喜ばしくもまた苦しい体験を与えてくれる他者は、もちろん現実に目の前にいる他者でもあるのですが、またもっとも多くの場合には、外国語を通して触れることのできる、異なる文化それ自体なのです。自国語 = 自文化のそれとは異なる言語的 = 文化的視点に基づいて、様々な他者に深い共感を寄せ、異文化を柔軟に受け入れることができる知性と感性があつてこそ、独自のものの見方や考え方、豊かで斬新な発想、人間的な深みや知の幅広さは獲得されます。そのときにこそ見做さんは、外国語が開いてくれる真の「素晴らしさ」を知ることになるでしょう。（終）

「ロシア語教室」ホームページもご覧下さい。

<http://www.soc.hit-u.ac.jp/~ynakajima/jugyouHP/russiantop.html>

## スペイン語

スペイン語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

### （１）スペイン語学修の目安

	到達のポイント	習得する語 彙数の目安	資格検定などで対応 するレベル
初 級	<p>スペイン語の基礎的な文法事項・語彙を習得する。</p> <p>動詞の時制は、直説法現在を中心に、現在完了・完了過去・不完了過去までを目標とする。</p> <p>スペイン語圏の社会・歴史・文化等についての理解を深める（視聴覚資料を適宜利用）。</p> <p>【読む】直説法の範囲ならば、辞書を参照することによって、大意をつかむことができる。</p> <p>【書く】辞書や教科書を参照しつつ、直説法の範囲で、簡単な自己紹介や説明を行うことができる。</p> <p>【話す・聞く】定型的な表現を用いて、簡単な自己紹介や旅行で最低限困らない程度の会話ができる。</p>	1000	スペイン語技能検定 5 級程度
中 級	<p>スペイン語の初級文法全般の学習を目標とする。</p> <p>文法事項は、直説法各時制の復習に加え、接続法現在・命令・未来・過去未来までを学習する。</p> <p>スペイン語圏の社会・歴史・文化等について、さらに理解を深める。</p> <p>【読む】辞書を参照することにより、新聞記事などの大意をつかむことができる。</p> <p>【書く】辞書や教科書を参照しつつ、直訳的であっても意味の通じるスペイン語で、簡単な通信や説明を行うことができる。</p> <p>【話す・聞く】定型的な表現だけでなく、習得した文法規則と語彙を組み合わせながら、意思の疎通を試みることができる。旅行を楽しむ程度の会話ができる。</p>	2000	スペイン語技能検定 4 級程度

### （２）スペイン語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野に入れ、専門的な研究でスペイン語を活用したい。
↓	
効果的な履修 モデル	<p>【1 年次】初級クラス授業（通年）1 科目及びスペイン語初級Bを履修。</p> <p>【2 年次】スペイン語中級、夏学期・冬学期各 1 科目を履修。</p> <p>【3 年次】スペイン語上級、夏学期・冬学期各1科目を履修。</p>
学習動機	専門的な研究には従事しないが、将来社会に出てビジネスなどでスペイン語を活用したいので、大学で基礎をしっかりと身につけておきたい。
↓	
効果的な履修 モデル	<p>【1 年次】初級クラス授業（通年）1 科目及びスペイン語初級Bを履修。</p> <p>【2 年次】スペイン語中級を 1 科目、地域文化論（中南米スペイン）を履修。</p> <p>【3 年次】スペイン語上級、1科目を履修。</p>
学習動機	スペインや中南米の文化に大変興味があり、スペイン語の学習を通して興味を深めたい。
↓	
効果的な履修 モデル	<p>【1 年次】スペイン語初級A・B（通年）1 科目、地域文化論（中南米スペイン）を履修。</p> <p>【2 年次】スペイン語中級を 1 科目履修。</p>

# 朝鮮語

朝鮮語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

## （１）朝鮮語学修の目安

	到達のポイント	習得する語 彙数の目安	資格検定などで対応 するレベル
初 級	<p>ハングルが正確に読めるようになり，簡単な文章を書いたり聞いたりできるようになる。また，決まり文句としての挨拶などが自然に出てくるようになる。</p> <p>さらに，言葉だけでなく，学習の一環として使われる映画や音楽などをとおして，隣国の文化になじむ。</p> <p>【読む】日常生活のなかに出てくる簡単な文章を辞書をひいて読めるようになる。</p> <p>【書く】限られた文型をもちいて，メールなどを書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】自己紹介ができて，旅行したときに困らない程度のやりとり（買い物や注文）ができるようになる。</p>	450	ハングル能力検定 4 ～5級 韓国語能力試験1級
中 級	<p>基礎文法が終わり朝鮮語の構造がおおよそつかめるようになる。そのうえで，さまざまな文型や語尾をもちいて，少しこみいったやりとりができるようになる。この段階にはいと理解のスピードが増すため，やる気のある人はどんどん伸びるようになる。</p> <p>似ているといわれる日本語とは微妙に異なる表現のおもしろさに気づいたり，ハングルで書かれた新聞や雑誌の記事を継続して読んだりしていくなかで，外から見た日本の姿に触れる。</p> <p>【読む】辞書をひいて新聞の記事や学術論文を読めるようになる。</p> <p>【書く】手紙や簡単なレポートを書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】自分が言いたいことをおおよそ伝えることができるようになる。また簡単な内容で，相手がゆっくり話せば大意をつかむことができる。</p>	1000	ハングル能力検定3級 韓国語能力試験2級
上 級	<p>朝鮮語文法に十分に習熟し，多様な状況に応じて活用できるようになる。朝鮮語は構造上日本語に最も似ている言語とはいえ，受身や敬語の使い方など非常に異なる点もある。その相違を理解し使いこなせるようになる。また朝鮮語の語彙には漢字が多いが，漢字の読み方は基本的には一つしかないので，漢字語の読み方を覚え専門用語の語彙を増やす。</p> <p>【読む】新聞・インターネットの記事や専門的書物も辞書を用いて，比較的容易に読めるようになる。</p> <p>【書く】朝鮮語の特徴を活かしつつ，手紙や，やや専門分野のレポートを書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】相手がゆっくり話せば場面に合った内容や表現で質疑応答などのコミュニケーションがとれる。また韓国への留学や長期滞在に備えて日常生活や大学の授業についていけるようになる。</p>	2000	ハングル能力検定 準2級 韓国語能力試験3級

(2) 朝鮮語履修案内

学習動機	将来仕事で朝鮮語を使いたい（プロの通訳，翻訳家以外）。
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 【2年次】朝鮮語中級（週2コマ） 【3～4年次】上級（週1コマ）+長期（1年間）留学
学習動機	大学院進学，研究者として朝鮮語を使用したい。
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 【2年次】朝鮮語中級（週2コマ） 【3～4年次】上級（週1コマ）
学習動機	韓国に滞在（駐在）する際に，日常生活にはほぼ困らないレベルになりたい。（商談はできない）
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 【2年次】朝鮮語中級（会話の授業と講読の授業をそれぞれ週1コマ以上） * 短期留学がプラスされるならばより効果的。 * 2年次終了までに到達したレベルを維持・向上させるため，3，4年次にも引き続き，上級（会話の授業を主に，1年あたり週1コマ以上）を履修することが必要。
学習動機	卒業論文やレポート作成のために朝鮮語の文献を活用したい場合。 到達のポイント＝中級レベルの「読む」を主として達成
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 【2年次】朝鮮語中級（週2コマ）
学習動機	韓国を（パック旅行でなく）個人旅行したい。／将来，朝鮮語の学習が必要になった時に自習できるレベルにしておきたい。
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】初級クラス授業 【2年次】朝鮮語中級（週1コマ）

# アラビア語

アラビア語科目の学修の目安（到達のポイント）および学習動機別の効果的な履修モデルは以下の通りです。

## (1) アラビア語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
初級	<p>アラビア語のアルファベットの読み方と書き方，基本的な文法や語彙を習得する。また日本語や英語との対照から，アラビア語ならではの表現方法に着目し，その背後にあるアラブ的な発想，思考，価値観，文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】アラビア語のアルファベットを読めるようになる。基本的な文型を用いたごく簡単な内容の文章を読めるようになる。</p> <p>【書く】アラビア語のアルファベットを書けるようになる。学習した基本的な文法や語彙を用いてごく簡単な内容の文章を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】ごく簡単な内容ならば口頭で表現できる。また相手がよく簡単な内容をゆっくり話す場合であれば理解できるようになる。</p>	300	
中級	<p>初級の学習内容を補完し（動詞の派生形など），それを多様な状況のなかでよりスムーズに応用できるようになる。アラビア語圏の文化，社会，歴史についての知識と理解を深める。</p> <p>【読む】辞書を用いて，日常・社会生活のテーマに関する簡単な内容の文章を読解できるようになる。</p> <p>【書く】辞書や参考書の助けを借りれば，簡単な内容のやや長めの文章を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】アラビア語圏の国々に旅行した際に，簡単な意思疎通ができる。</p>	600	

## (2) アラビア語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野に入れ，専門（研究・仕事）でアラビア語を活用したい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】アラビア語初級（通年）1コマを履修。</p> <p>【2年次】アラビア語中級を夏学期・冬学期ともに各1コマ履修。</p>
学習動機	将来アラビア語を専門的に用いるか分からないが，アラビア語には大変興味があり，基礎をしっかりと身につけておきたい。
↓	
効果的な履修モデル	<p>【1年次】アラビア語初級（通年）1コマを履修。</p> <p>【2年次】アラビア語中級1コマを夏学期に履修。</p>
学習動機	アラビア語を専門的に用いることはないが，アラビア語がどのような言葉であるかを理解してアラブ文化への関心を高めたい。
↓	
効果的な履修モデル	【1年次】アラビア語初級（通年）1コマを履修。

# 日 本 語

日本語科目の学習の目安（到達のポイント）

## （１）日本語学習の目安

レベル	中級・前	中級・後	上級・前	上級・後
聴解	直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現が理解できる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	普段大学等で出会う様な身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら、要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりしているなら、時事問題や個人的、専門上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題が自分の専門であれば、議論の流れが複雑であってもおおよそ理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組がわかる。	たとえ、構成がはっきりせず、関係性が明示されていないなくても、長い話が理解できる。特別の努力なしにテレビや映画がほとんど理解できる。
読解	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の専門関連のテキストなら理解できる。辞書を使えば、大学の履修案内、図書館利用案内などが理解できる。	現代の問題について、筆者の立場が明確な記事や報告が読める。さらに、ある程度の量を速読し、内容をつかむことができる。	専門書・資料等を精読し、内容をつかむことができる。長い複雑な事実に基づくテキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の専門外の専門的記事も理解できる。
口頭表現：やりとり	情報の直接のやりとりが必要な場合、身近な話題や活動について話し合いができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないが、短い社会的なやりとりをすることはできる。	家族や趣味、勉強、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	流暢に自然に会話することができ、母語話者と普通にやりとりすることができる。身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明したり、的確に質問できる。	言葉をことさらに探さずに流暢に自然に表現できる。社会上、勉強上の目的にあった言葉遣い（敬語を含む）ができる。また、自分の考えや意見を明確に表現でき、自分の発言を上手にほかの話し手の発言にあわせることができる。
口頭表現：発表	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望などを語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	自分の興味関心のある分野に関する限り、適切な語彙や表現を選んで説明をすることができる。時事問題についていろいろな可能性の長所、短所を示して、自分の見方を説明できる。	文脈に合った適切な語彙や表現を選んで、詳しく論じ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。



文章表現	直接必要のある領域で のことがなら簡単に 短いメモやメッセージ を書くことがきでる。短 い個人的な手紙なら書 くことができる。たとえ ば、礼状など。	身近で個人的に関心のある 話題について、つな がりのあるテキストを 書くことができる。ま た、必要な事項を箇条書 きにできる。	自分の興味関心のある 分野に関する限り、適切 な語彙や表現を選んで 詳細な説明文を書くこ とができる。レポートで 情報を伝え、一定の視点 に対する支持や反対の 理由を書くことができる。 また、講義を聴きなが ら大まかな内容につ いてノートをとること ができる。	いくつかの視点を示し て、明瞭な構成で表現が できる。自分が重要だ と思う点を強調しながら、 レポート等で複雑な主 題を扱うことができる。 読み手を念頭において、 適切な文体が選択でき る。また、講義を聴き ながら内容について適切 にノートをとることが できる。
------	--	--	---	--

この表の作成にあたっては、CEFR（Common European Framework）のレベル分け等を参考にしています。

## （2）日本語履修案内

毎学期ははじめに行われるプレイスメントテストの結果によってレベルが決まります。以下の、レベルごとに割り振られた授業科目から、自分に足りない、あるいは必要と思われる科目を選んで履修してください。

### 日本語の授業一覧（レベル別対応表）

表 1

レベル	選 択 科 目
日本語中級・前	文章表現入門，口頭表現入門，漢字CAI
日本語中級・後	文章表現Ⅰ，口頭表現Ⅰ，中級読解，社会科学の基礎語彙，漢字CAI
日本語上級・前	文章表現，文法，口頭表現，上級読解，経済の日本語
日本語上級・後	文章表現，口頭表現，上級読解，速読，翻訳，近代文語文購読，経済の日本語，経済専門文献日本語，法の日本語，社会・人文の日本語

表 2

選択科目（日本語選択・）	中級・前	中級・後	上級・前	上級・後	夏	冬	
文章表現入門（書く）		×	×	×			全学共通教育科目
文章表現（書く）	×		×	×			全学共通教育科目
文章表現（書く）	×	×		×			全学共通教育科目
文章表現（書く）	×	×	×				全学共通教育科目
文法（文法）	×			×			全学共通教育科目
口頭表現入門（話す）		×	×	×			全学共通教育科目
口頭表現（話す・聞く）	×		×	×			全学共通教育科目
口頭表現（話す・聞く）	×	×		×			全学共通教育科目
口頭表現（話す・聞く）	×	×	×				全学共通教育科目
中級読解（読む）	×		×	×			全学共通教育科目
上級読解（読む）	×	×		×			全学共通教育科目
速読（読む）	×	×					全学共通教育科目
翻訳	×	×	×				全学共通教育科目
社会科学の基礎語彙（語彙）			×	×			全学共通教育科目

漢字CAI			×	×	×		全学共通教育科目
近代文語文講読（読む）	×	×	×			×	全学共通教育科目
経済の日本語（読む・語彙）	×	×		×			学部教育科目
経済の日本語（読む・語彙）	×	×	×				学部教育科目
経済専門文献日本語	×	×					大学院科目
社会・人文の日本語（読む）	×	×	×			×	学部教育科目
社会・人文の日本語（読む）	×	×	×		×		学部教育科目

：受講できる      ：担当教員の許可があれば受講できる      ×：受講できない

## (2) 言語文化科目

言語文化科目には「言語文化科目Ⅰ」と「言語文化科目Ⅱ」があります。

「言語文化科目Ⅰ」には、「基礎科目」として、言語文化や外国語を学習するために知っておくべき基礎的、初歩的な事柄を学べるような科目が置かれています。また「発展科目」である「言語文化科目Ⅱ」としては、「言語と思想」、「表現と解釈」、「文化とアイデンティティ」、「日本と東アジア」の4つのコースが設定され、ある程度体系的な学習ができるようになっています。Ⅰは言語そのものを、Ⅱは言語表現をはじめ芸術一般を、Ⅲは言語とともに人間の環境を形成する文化の問題を扱います。Ⅳは日本をふくめた東アジアという地域を対象としています。こうしたより広い視野の中で、自らの学ぶ外国語を、あらためて捉え直してみてください。

なお、言語文化科目をⅠとⅡに分類してあるのは、前者が基礎的なもの、後者が発展的なものという内容を示し、選択する際の目安にしたものですが、たとえば言語文化科目Ⅰを取っていないと、言語文化科目Ⅱを取れないということではありません。それぞれの学修計画に従って、自由に履修してかまいません。

言語文化科目では以下のような多彩な科目が提供されています。

### 言語と思想

言語論Ⅰ、Ⅱ、英語学（英語学概論、英語史、英語学各論Ⅰ、Ⅱ）、レトリック論、文献学（日本）

### 表現と解釈

文学理論、英語圏文学Ⅰ、Ⅱ（イギリス）、英語圏文学Ⅲ、Ⅳ（アメリカ）、フランス語圏文学、ドイツ語圏文学、ロシア・東欧文学、映像文化論、造形芸術論Ⅰ、Ⅱ、音楽論（西洋、東洋）、舞台芸術論

### 文化とアイデンティティ

ドイツ語圏思想、フランス語圏思想、異文化交流論、民族文化論、宗教と文化Ⅰ、Ⅱ、英語圏地域文化論（イギリス、アメリカ）、ドイツ語圏地域文化論Ⅰ、Ⅱ、フランス語圏地域文化論、スペイン語圏地域文化論（中南米・スペイン）

### 日本と東アジア

日本の言語文化、日本古典文学、日本近文学Ⅰ、Ⅱ、現代日本語論Ⅰ、Ⅱ、古文書（近世Ⅰ、Ⅱ、中世Ⅰ、Ⅱ）、中国の言語と文化、中国思想論、中国文化論、中国社会論、台湾の歴史と文化、朝鮮の歴史と文化Ⅰ、Ⅱ、東アジアポスト植民地論

「上書き再履修」が可能な言語文化科目は毎年開講されるとは限りません。何年かに一度しか開講されない可能性もあります。

### (3) 自然・数理科目

#### 数理情報科目

##### (1) 数理情報科学修の目安

数理情報の基礎および発展科目は、学生が将来どの分野に進むにしても、その分野における数理科学的概念や手法を理解するために欠かせない基礎的な性格を持つ科目群であり、特に「外国語・数理情報科目」として数理情報基礎科目は、選択必修になっています。

なかでも、線型代数のIA、IB、微分積分のIA、IB、は最も基礎的な科目ですが、まずIAとIBの違いについて述べます。IAはIBに比べて範囲を少ししぼり、進度もゆっくりめで社会科学を学ぶためないし教養としての数学を学ぶための最も基本的な部分に関する授業です。

一方、IBはIAに比べて扱う範囲が少し広がりその分進度も早く、さらに、続論、その他の数学の授業を続けてとるための科目だと言えます。また、IAの履修者でも、その範囲をよく理解しているのであれば、IAのあと、続けてIBを履修することは可能です。また、よくある質問ですが、数Cの知識はIA、IBのどちらに対しても必要なく、授業のなかでその範囲のことも含め（線型代数で数Cの部分、微分積分で数Cの部分）を勉強します。また、一橋大学は社会科学系の大学ですが、伝統的に数理科目を重視しており、数理科目が得意な学生がたくさん入学しています。そのような学生は、将来学部専門に行っても数理科目で得られた知識、論理能力を生かしさらに発展させることが期待されます。たとえば、将来、経済理論（ミクロ、マクロ）、統計・ファイナンス、ゲーム理論、情報数理、金融工学、保険数理などでは数学を言語のように用い多用するので、これらの専門に進みたい学生には、共通科目の数学の授業を積極的に履修することを勧めます。これらのゼミに進みたい学生は最低でも微分積分、線型代数が必要で、できれば集合と位相、確率や数理発展科目なども受講しておきたいところです。

情報関係の基礎科目には、コンピュータの扱い方から情報科学の初歩までを学ぶ情報基礎と、それよりやや進んだ内容を取り扱う計算機概論とがあります。まず、情報基礎を履修し、次に計算機概論を履修するのが標準的な履修の順序です。さらに進んで共通発展科目の情報数学A、B、各学部の計算機・情報関連科目を履修しようとする学生は、情報基礎に続けて計算機概論を受講することを強く勧めます。

また教職科目と経済学部の授業としての数学科目をとれば、数学の教員免許も取得できます。また経済以外の学部でも、上記の科目をとれば数学の教員免許は取得可能です。

##### (2) 数理情報科目の紹介

線型代数IA	線型代数IB
線型代数についての入門的な講義を行う。行列の定義・演算、掃き出し法による連立方程式の解き方、逆行列、行列式、空間における直線・平面の方程式などが講義内容で、すべて基本的なものにとどめ、やさしく講義する。	線型代数についての入門的な講義を行う。行列の定義・演算、掃き出し法による連立方程式の解き方、行列の階数、逆行列、行列式の定義と基本的計算、空間における直線・平面の方程式、外積、行列式の幾何学的意味などが講義内容である。将来の専門を意識し、IAに比べ若干発展的な内容のものについても触れる。
微分積分IA	微分積分IB
微分積分の入門的な講義を行う。高校数学の復習から始まり、極限、微分計算とその応用（接線、グラフ、極値、テーラー展開の初歩）、積分計算とその応用（面積、体積）が主要内容である。すべて基本的な題材にとどめ、できるだけやさしく講義する。	微分積分の入門的な講義を行う。高校数学の知識を前提とし、極限、微分計算とその応用、テーラー展開、積分計算とその応用などについて講義をするが、将来の専門を意識し、IAに比べ若干発展的な内容のものについても触れる。

線型代数		微分積分	
<p>「線型代数Ⅰ」の続きとして、線型空間（ベクトル空間）、1次独立・従属、基底、次元、線型写像（階数、退化次数）、表現行列、基底の取替え、固有値・固有ベクトル、対角化、内積空間、グラム・シュミットの直交化、実対称行列の直交行列による対角化、（教員によって時間があれば、2次曲線・曲面）などが講義内容である。</p>		<p>微分積分に関する発展的な講義である。主に多変数の微分積分を扱う。偏微分の定義と計算、接平面、2変数のテーラー展開、極値問題（条件なし、ラグランジュも含む）、2重積分の定義と計算、変数変換（教員によっては極座標変換のみ）による2重積分の計算、表面積や体積の計算、また教員によってはガンマ関数、ベータ関数などが講義内容である。</p>	
重合と位相		集合と位相	
<p>まず、集合の基本的概念を学ぶ。ここで集合の演算、写像等の数学を記述するのに便利な記号を学ぶことになる。次に集合の濃度の理論、無限集合の大きさについて学ぶ。最後には、教員によっては順序集合の基礎理論や選択公理などのやや発展的内容についても触れる。本講義は計算力より論理的思考能力を重視する。</p>		<p>平面または空間内の点の集まりを点集合というが、点集合の位相的性質に関する講義である。計算よりも論理論証能力が問われる授業でもある。</p>	
確率	情報基礎	計算機概論	
<p>確率についての入門的講義である。まず高校数学における確率を復習しそのうえで確率分布・確率変数・期待値・分散など、確率論の基本的な用語の解説から始め、様々な確率分布（2項分布、指数分布、正規分布など）や極限定理（大数の法則、中心極限定理）について説明していく。微分積分 程度の微積分の予備知識は必要である。</p>	<p>パソコンの基本的な利用法を身につけ、コンピュータに関する知識や技術を再構築する。ネットワークの仕組みやコンピュータの動作原理の学習を通して、「情報科学」の基本概念を理解する。またネットワーク社会で求められる情報倫理の習得や、情報メディアの活用、情報コミュニケーション、初歩的なプログラミングの考え方等を中心に学ぶ。講義形式ではなく、情報教育棟において、毎時間与えられた課題に取り組む実習形式で授業が行われる。</p>	<p>コンピュータを有効に活用するにあたって、その動作の基本概念を理解しておく事は有用である。本講義では、プログラミング（コンピュータに処理の詳細を指示すること）を通して、計算機の原理や動作について基礎的な理解を得るとともに、簡単なプログラミングができるようになることを目的とする。その中で、オブジェクト指向等の最近の情報科学の成果についても学ぶ。講義形式ではなく、情報教育棟において、毎時間与えられた課題に取り組む実習形式で授業が行われる。</p>	

以下は発展科目の紹介である。

線型代数続論	微分積分続論
<p>線型代数学の中級（有限次元線型空間論）への入門を取り扱う。抽象的な線型空間とその具体例の理解。有限次元線型空間の次元に関する基本定理、線型空間の基底とその取り替え、基底の取り替えと線型写像・変換の行列表現の正確な理解を目標とする。</p>	<p>微分積分、に続く微分積分学の続編。微分積分においては、極限の概念が基本的かつ本質的であるが、それは実数の公理の上に築かれている。この講義では、極限の定義を見直して、級数の収束・発散、べき級数、複素数冪級数の理論を中心に学ぶ。</p>

数理論理学	計画数学
現代の社会科学においては、数学的素養が語学能力と同等かそれ以上に必要となっている。数学は、言語的部分（数理論理）と数学そのものを発見する手法（解析・代数・幾何ほか）によって構成されている。本講義では、通常の数学の授業とは異なり、数学の言語的部分のみにフォーカスを当てる。数学の文法（構文・時制）・和文数訳・数文和訳・数学の作文などを通じ、科学のユニバーサルな言語である数学の記述手法および読解方法を学ぶ。	数理計画法を学ぶ。不等式制約下で目的関数の最大値もしくは最小値を考える問題である。前半では線型計画法（目的関数や制約式が全て線型であるような問題）、後半では非線型計画法について解説する。 1. 線型計画法に関しては、単体法（シンプレックス法）や双対定理など基本事項を、例題も使って説明する。 2. 非線型計画法に関しては、有名なKuhn - Tucker（キューン・タッカー）条件の成立理由や使い方について説明する。

### （3）数学履修案内

学習動機	教養として数学を履修する学生
↓	
効果的な履修モデル	【1～2年次】線型代数IA，微分積分IA
学習動機	数学を必要とする学生
↓	
効果的な履修モデル	【1～2年次】線型代数IB，微分積分IB，線型代数 ，微分積分 ，（集合と位相 ，確率）
学習動機	数学の基礎学力をしっかりとつけ、専門で数学を多用しようとする学生
↓	
効果的な履修モデル	【1年夏学期】線型代数IB，微分積分IB 【1年冬学期】線型代数 ，微分積分 ，確率 【1～2年次】集合と位相 ， 【2年次】共通発展科目（線型代数続論，微分積分続論，計画数学，数理論理学）や学部科目

### （4）各科目の詳細内容

#### 線形代数

1. 行列（定義，成分，行，列など）
2. 行列（和，差，定数倍，積演算，逆行列，対称行列，直交行列）
3. 連立方程式（連立方程式の行列ベクトル表示，係数行列，拡大係数行列）
4. 連立方程式（掃き出し法，行基本変形）
5. 連立方程式（行列の階数と連立方程式の解）
6. 連立方程式（掃き出し法による逆行列の求め方）
7. 行列式（定義，サラスの方法）

8. 行列式 (基本的性質, 展開)
9. 行列式 (クラメルの公式)
10. 行列式 (ベクトルの外積と平行六面体の体積)
11. 空間における直線, 平面の方程式
12. 楕円, 双曲線, 放物線の方程式

Aでも以上の内容であるが, 例えば連立方程式の取り扱いにおいて変数, 式の個数を一般の $n$ ではなく, 3, 4個までに限定するようなことで, より具体的にやさしく講義する。

#### 線形代数

1. 線型空間 (定義, 例, 一次結合, 一次独立, 一次従属)
2. 線型空間 (基底, 次元)
3. 線型写像 (定義, 例, 回転行列と回転変換など)
4. 線型写像 (基底に関する表現行列, 基底の変換)
5. 固有値と固有ベクトル (固有値の定義とその計算, 固有ベクトル)
6. 固有値と固有ベクトル (行列の対角化と $n$ 乗計算)
7. 固有値と固有ベクトル (内積, 正規直交基底, グラムシュミットの直交化, 直交行列の対角化)
8. 2次形式 (定義, 対称行列による表示)

#### 微分積分

1. 数列とその極限 (極限計算, 無限等比級数,  $e$ の定義など)
2. 関数とその極限 (関数の定義, 初等関数, 極限計算など)
3. 微分 (微分の定義, 和, 差, 積, 商, 合成関数の微分)
4. 微分 (基本的関数の微分, 逆三角関数の定義とその微分)
5. 微分的应用 (接線, 高次導関数, 凸性)
6. 微分的应用 (極大, 極小, グラフの書き方)
7. 微分的应用 (テーラー展開)
8. 積分 (不定積分の定義, 計算)
9. 積分 (置換積分, 部分積分)
10. 積分 (定積分の計算)
11. 積分 (広義積分)
12. 積分 (面積, 体積, 弧長計算)

以上がIBの内容である。

Aでも基本的には以上の内容であるが, 広義積分, 体積計算は取り扱わない。また, 複雑な計算はさけ, より基本的な問題に限定する。

#### 微分積分

1. 多変数関数 (定義, 例, 極限, 連続性)
2. 偏微分 (定義, 計算, 全微分)
3. 偏微分 (合成関数の偏微分, 高次の偏微分)

4. 偏微分 (テイラーの定理)
5. 偏微分 (極大, 極小, 鞍点)
6. 偏微分 (陰関数, 逆関数)
7. 偏微分 (Lagrangeの未定乗数法と条件付き極値問題)
8. 重積分 (定義, 累次積分による計算)
9. 重積分 (変数変換, 極座標による計算)
10. 重積分 (体積計算などへの応用)

## 確率

1. 確率の基本 (事象, 確率空間, 確率変数)
2. 確率の基本 (確率分布, 同時確率分布, 独立性)
3. 確率の基本 (期待値, 分散, 共分散)
4. 離散確率分布 (ベルヌーイ分布, 2項分布)
5. 離散確率分布 (幾何分布, ポアソン分布)
6. 連続確率分布 (確率密度関数, 確率分布関数)
7. 連続確率分布 (一様分布, 指数分布, 正規分布)
8. 連続確率分布 (ガンマ分布,  $\chi^2$ 分布)
9. 多次元確率分布 (同時密度関数, 周辺密度関数, 2重積分計算)
10. 多次元確率分布 (和, 差, 積, 商の確率分布と変数変換)
11. 確率母関数とモーメント母関数 (定義, 例, 基本的性質)
12. 大数の法則と中心極限定理 (例, 2項分布の正規近似など)



## 自然科学科目

自然科学の基礎科目は、大学受験学問から脱却して、自然科学の知の枠組みへのアプローチ、導入を試みる科目です。さらに知の枠組みや方法論を深めたいと考える学生には発展科目を通じ多くの学習機会を提供しています。

### (1) 自然科学履修の目安

本学で提供される現代自然科学の基礎科目である「物理学」、「化学」、「生物学」、「地球科学」、「環境科学」分野を集約した科目として、サイエンスミニマムを提供しています。この科目を履修することで自然科学の姿を俯瞰することができます。またこの5分野の科目はそれぞれ独立した形で基礎科目群として提供しています。サイエンスミニマム・基礎科目で学んだ知識を、基本的な実験と講義を通して体得する科目としてサイエンス工房を開講しています。さらなる学問の涵養を目指す学生には、発展科目群を用意しています。なかでも、少人数で実験などの知的体験学習の色合いを濃くした教養ゼミナールを、それぞれの基礎科目分野に対応して夏学期・冬学期ともに開講しています。加えて、自然科学の知をさらに押し広げるために、地球環境、動物生態、自然科学史などの科目を用意しています。提供される科目は、以下のようにそれぞれの科目が関連しながら、基礎から発展までをカバーしています。

### (2) 履修案内

教養としての幅広い科学的基礎知識や思考法を身につけるために、様々な基礎科学を用意しています。また基礎知識の体験的学習を行えるよう実践的（実験、実習を含めた）講義を、教養ゼミナールで提供しています。

さらに深化した科学知識を発展科目と科学関連科目で提供しています。

## (4) 運動文化科目

現代の生活様式は、人々に慢性的運動不足を引き起こし、体力・健康不安を増大させています。他方、スポーツの社会的広がりには、スポーツが自己実現やコミュニケーション、人間らしい生き方の追求と深くかかわる文化であることを示しており、人々の潜在的・顕在的スポーツ要求を一般化させつつあります。こうした社会状況に照らし合わせるならば、スポーツ・運動文化、健康についての学習は、現代生活をより豊かにするうえで必要不可欠なものです。

運動文化科目は、健康とスポーツに関する科学的認識と高度な教養を身につけることを目標にしており、この文化領域を主体的に享受できるような能力の育成をめざしています。

運動文化科目は、「スポーツ方法」「スポーツ方法」「スポーツ科学・健康科学」の3つの柱から構成されています。

### スポーツ方法

基礎的な体力と、スポーツについての基礎的能力（技術認識、練習方法、技術習得、組織運営など）の養成、及びグループ活動を通しての人間関係の形成を目的としています。

開講されている種目は、サッカー、硬式テニス、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、ソフトボール、ジャズダンス、フライングディスク、スポーツフィットネス、オルタナティブスポーツの他、療育コース（健康上の理由で運動制限の必要がある学生のため）があります。

また、同じ種目であっても、担当教員によって授業の進め方に違いがありますので、Webシラバスの記載内容を検討して、選択してください。

療育コースを希望する学生は、面接が必要ですので、運動文化教員室に申し出てください（日時等の詳細は『ルールブック』を参照）。

### スポーツ方法

スポーツ方法の目的を共有し、またより高度なスポーツ学習の機会を提供するとともに、新しい種目の導入などをふくめ、多様なスポーツ種目を開講します。

同時に、該当種目が未経験な学生に対しては、基礎的な能力習得を目的とする授業も開講しています。

開講種目の編成は、スポーツ方法で開講されている種目だけでなく、ゴルフ、サッカー／フットサル、ウォーキング、ジョギング、古武術、ソフトラクロスを加え、より多様なものとなっています。すでに経験のある種目のみならず、未経験の種目にも挑戦してください。

\*なお、スポーツ方法の具体的な履修・抽選の方法については、履修ルールブックを参照のこと。

### スポーツ科学・健康科学

現代社会における健康やスポーツ・運動文化のあり方にかかわる問題を、さまざまな角度から取り上げます。

## (5) 総合科目

総合科目は、社会科学の総合大学としての一橋大学の学生にとって、社会科学の基盤や総合、さらには深い教養のために、所属学部にかかわらず必要であると考えられる科目であり、また、学部の枠をこえた総合性をめざして、全学的な協力体制の下で、開設されている科目です。

総合科目は、「社会科学科目」、「人文・思想科目」、「学際テーマ科目」、「寄附講義」、「教養ゼミナール」の5つの科目群からなっています。以下にその概要を紹介します。

### 社会科学科目

各学部における学問の基礎的な概念、方法を、他学部の学生をふくめた全学生に対して講ずる、いわば各学部の学問のエッセンスともいうべき科目と、社会科学の方法論的基礎として学ぶべきものを講ずる科目によって構成される科目群です。

### 人文・思想科目

人間そのもののあり方、思想と歴史などを論じる人文科学のさまざまな領域について、その基礎的な概念、方法を講ずる科目群です。

### 学際テーマ科目

全学の教員の協力によって、専門分野の枠をこえたテーマについて、さまざまな視野からの検討を加えようとする科目です。いわば総合科目の「総合」性を象徴する科目であるといえます。なお「まちづくり」は平成16年度（2004年度）の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に選定されています。

### 如水会寄附講義

社団法人如水会の全面的な後援を得て、平成13年度（2001年度）より、如水会寄附講義「社会実践論」を開講しています。これは毎回、各界において活躍中の本学卒業生の方から、社会の第一線からの実践的で有意義な講義をしていただく科目です。平成18年度（2006年度）からは、本学OB・OGとの対話を通してキャリア形成を図る如水会寄附講義「キャリアゼミ」を開講しています。さらに平成19年度からは「男女共同参画社会におけるキャリアデザイン」が開講され、社会で活躍する本学卒業生を中心に、中央官庁や地方自治体で男女共同参画推進にかかわっている方に行政の支援策の現状を、また企業で実践している経営トップ、人事部、管理職の方々に、その企業独自の取組みとその実践、課題を話していただきます。さらに平成22年度から「武道としての柔道」を開講しています。

### 教養ゼミナール

全学共通教育の基本目的である「ものの考え方の基盤形成」の機会を、少人数教育のゼミという場を通して与えようとするものです。ゼミ重視という本学の教育の伝統を、全学共通教育の中で実現するもので、学問の方法を、教員個々の個性や発想の中に生きたものとしてみることのできる、よい機会だといえます。

## (6) キャリア形成支援

本学では、学生の皆さんのキャリア形成に資するために、様々な科目を提供するとともに多彩な支援活動を展開しています。これらは、体系的にあるいはその一部を科目履修し、さらに進んで支援活動に参加することによって、皆さんが卒業後も含めた自らのキャリア形成に関するイメージを明確に持ち、本学における学修計画および就職活動の参考になることを願って計画されています。

さらに、本学のこの取組は文部科学省平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおいて「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」として採択されました。取組の特徴と目的とする教育効果は以下の通りです（URL：<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~gp/>）

### 【取組の特徴】

#### 1) キャリア教育コアプログラム

如水会との緊密な連携のもとに業界の第一線で活躍する卒業生約150名を講師として組織し、少人数の対話式授業が業種別に展開される「キャリアゼミ」、社会の今を伝え自らの実践経験を語る「社会実践論」、21世紀の男女共生社会における広い人生設計を構想する「男女共同参画時代のキャリアデザイン」などの如水会寄付講義科目を、コアプログラムとして開講します。

#### 2) キャリア教育関連科目

学部教育・教養教育の枠を超えて多様なキャリア教育科目群を展開します。

#### 3) 多彩なキャリア形成支援活動

インターンシップ、進路就職相談、就職ガイダンス、各種セミナーなど多彩なキャリア形成支援活動をさらに充実させます。

#### 4) 学生自主組織「キャリアデザイン委員会」の支援

学生が自分たちの目線から様々なキャリア・セミナーやプログラムを企画しており、その活動を支援します。

### 【4つの教育効果】

1) 1, 2年次からキャリア意識を高めることで、具体的な目標に向けた大学での学修を進めることができます。

2) 大学での理論的学習と社会実践への接触を有機的に連携させることにより、深い洞察と現場感覚に根差した将来設計を考えられるようになります。

3) 現実社会に触れることで、在学中に修得する専門的知識やスキルを、自己開発能力やコミュニケーション能力、対人対応力など社会における形成上必要な能力と有機的に結び付けられるようになります。

4) 大学における学修をキャリア形成の一環として捉えることで、全体的にキャリアデザインができるようになり、学修全体が充実したものとなります。

### 【キャリア形成に関わる諸科目】

#### 1) 業界の動向を知り、学生生活の指針を先達から学ぶ「社会実践論」（如水会寄附講義）

本学卒業生によるオムニバス方式の講義です。社会の第一線で活躍する一橋の先輩が、職業経験に裏打ちされた人生哲学や職業意識を伝授し、産業の現状を講義することで、学生の職業観を醸成し、これから専攻する専門分野への勉強意欲を鼓舞します。夏・冬学期各12名の講師が、所属する業界がグローバルな市場経済においてどのような方向に進もうとしているのか、「若者はその産業界で何を期待されているのか」、さらに学生の将来の職業選択を軸に「学生時代に何をしたか」、「社会に出てどういう転機があったのか」等自らの体験を交えて、講義します。キャリア形成の入門的な科目で1年生を主な対象とします。

## 2) 少人数のゼミで業界を掘り下げて学ぶ「キャリアゼミ」(如水会寄附講義)

「キャリアゼミ(通称:如水ゼミ)」は「ゼミの一橋」の伝統を活かし、産業界などの第一線で活躍しているビジネスリーダーと学生との対話を中心としたゼミスタイルの双方向授業です。定員は各ゼミ10~15名と少数で、業種ごとに半年または通年で開講されます。各業界のビジネスリーダーが自らの実務経験を通じて身に付けた知識や技術、経営哲学などを学生に提示し、それを素材とした対話を通じて、学生がビジネスの実践的な理解を深め、卒業後の自分のイメージを構築して、目標に向けた具体的な学修を進めることを目標にしています。主に2年生が対象です。

## 3) 男女共生社会における広い人生設計を構想する「男女共同参画時代のキャリアデザイン」(如水会寄附講義)

7) 一橋大学ジェンダー教育プログラム中の科目紹介を参照してください。

## 4) キャリアを理解し、キャリアデザインに対する意欲を喚起する「キャリアデザイン論」

キャリアデザインには、仕事に対する自己イメージを形成し、適切に能力を高めながら、職業選択の意思決定を行なっていく一連の主体的活動計画という意味があります。参加者には、この授業を通じて、キャリアというものを正しく理解し、キャリアデザインに対する意欲を喚起してほしいと願っています。

この授業は、レポート、診断、グループワーク、ディスカッションなどの手法を用いることで、授業への積極的な参加を求めます。到達目標は、キャリア理論に関する正しい理解が得られること、将来に向けてキャリアデザインを進めていくスキルやスタンスが身につくこと、そして「社会に出てから必要となる基礎力」が向上することです。就職のノウハウを教える授業ではありません。

## 5) 就業経験からキャリア設計を考える「インターンシップ」

受講者が各種の企業・団体においてインターンとして短期間の就業経験を行なうとともに、その前後の課題の実施を通じて、自らのキャリア設計について考える機会を提供します。

インターン先の企業・団体は、大学の教育目的を理解したうえで協力して下さっており、この授業は「教育の一環としてのインターン」として設計されています。参加学生は、事前準備を行い、インターン経験についてのレポートを作成することを通じて、卒業後の職業選択、キャリア設計について本格的に考えることが求められます。

## 6) その他の科目

「社会起業論」、「コミュニティビジネス起業講座」、「まちづくり」、「コミュニケーションと表現」、「企業社会論」などキャリア形成に資する多彩な科目が開かれており、各学部の専門科目の中にも関連する科目があります。

## 【キャリア支援の様々な活動】

学生支援センター・キャリア支援室では、独自に、あるいは学生自主組織「キャリアデザイン委員会」を支援する形で、様々なキャリア形成支援活動を展開しています。

### 1) キャリア形成支援

正課科目「インターンシップ」(学部2・3年生が履修、2単位)の他に、就職支援のための「インターンシップ」(大学院修士1年生を対象、単位なし)を開設しています。如水会事務局およびマーキュリー研究会の支援を受け、2010年度は20社に学生約52名を受け入れていただきました。

### 2) 進路・就職相談

専任のキャリアアドバイザーが、学生の進路・就職に関する学生の疑問や悩み等について、具体的に対応しています。

### 3) 就職ガイダンス・各種セミナー

就職活動が円滑に進むよう、就職に関する数多くのガイダンス・セミナー等を実施しています。11月上旬、学部3年生・修士1年生および就職を希望する全ての学生向けに就職活動へのオリエンテーションを行ない、その後1月まで毎週、約400社にのぼる会社説明会を行ないます。就職セミナーでは、産業界が直面している諸問題からテーマを選び、その専門家に講演を依頼し、問題関心を広める催しを提供しています。その他、就職活動体験報告会、業界説明会な

ども行なっています。

#### 4) 就職情報・資料の作成・提供

就職の手引き、就職活動体験記、インターンシップ報告書などを発行しています。また、キャリア支援室には求人票、企業・業界等に関する関係資料、企業別OBOG名簿等を取り揃えています。

### (7) 一橋大学ジェンダー教育プログラム (GenEP =Gender Education Program)

本学では、大学院社会学研究科のジェンダー社会科学研究センター (Center for Gender Research and Social Sciences; センターの詳細については、ホームページをご覧ください <http://gender.soc.hit-u.ac.jp/index.html>) のGenEP部門を中心に、全学共通教育から学部科目、そして大学院科目まで体系的に組まれたジェンダー教育プログラムが2007年度から提供されています。これは、2005年に始まった本学ならではのジェンダー教育プログラムの策定を目指す「一橋大学における男女共同参画社会実現に向けた全学的教育プログラムの策定」(GenEP) プロジェクトにより始まりました。共学の大学として、男子学生・女子学生が肩を並べて男女共同参画社会に向う時代のトレンドを学び、相互の課題を受け止めあい、また社会科学や人文科学の研究を進めていく上での基礎的素養を身につけていくことを目的としています。将来さまざまな分野で活躍するであろう皆さんが、全学共通教育から学部科目まで体系的に組まれた、このジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待します。

#### 【取組みの特徴】

ジェンダーを授業の主軸とする基幹科目群と、ジェンダーが取り上げられる学際的な連携科目群からなります。

<基幹科目群>ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしており、導入科目から発展科目への積み上げ方式となっています。発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の習得を目指します。

<連携科目群>基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しながら、既存の社会科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

#### 【教育効果】

ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得します。それを発展させて、ジェンダー視点から既存のディシプリンを問い直し、新しい社会科学の地平を切り拓くことを目指します。

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、自分のキャリアデザイン＝将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。

## 学部・共通科目 基幹科目群

ヒューマンセクソロジー【共通/夏-火2】 村瀬幸浩
男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性（Sexuality）の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。
男女共同参画社会のキャリアデザイン【共通/夏-木4】 西山昭彦/オムニバス（如水会講師）
人材のダイバーシティ、男女共同参画、ワークライフバランスなど、新たな社会的トレンドの背景と具体的な実践例を学ぶ場を提供します。企業で活躍する本学卒業生、官界で男女共同参画に携わる方々、経営トップの方々によるオムニバスです。
ジェンダーから世界を読む【共通/冬-水2】 三浦玲一
さまざまな時代、地域、言語文化を専門とする講師陣が、「ジェンダー」という視点を共有して、「世界」のありようを多角的に読み解くリレー講義です。いろいろな言語文化のなかのジェンダーを読み解いていきます。
ジェンダーと心理学【共通/冬-水2】 柘植道子
ジェンダーにまつわる問題を心理学の視点からアプローチします。性とジェンダー、性的指向、性自認、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性役割態度、男女差、ジェンダーとメンタルヘルスなどのトピックを扱います。
ジェンダーと社会【社・基礎/夏-火3】 佐藤文香
ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマごとにジェンダー視角から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。
家族社会学【社・発展/夏-木3】 木本喜美子
現代家族がかかえる問題を明らかにするために、家族の歴史変動過程を重視し、その把握と解析方法をめぐって理論的立場を異にする見解に検討を加えていきます。ジェンダー・アプローチが焦点となります。
ジェンダー論【社・発展*/夏-火5】 佐藤文香
ケア・国家・軍隊・ポルノグラフィ・法など、ジェンダー関係の再編をめぐってフェミニズムの中に蓄積されてきたいくつかの争点を、理論的立場の相違として考察していきます。

## 学部 連携科目群

### 学部・共通教育連携科目群

頻度	曜日・時限	講義名	担当者
	夏-火3	教養ゼミナール	井川ちとせ
	夏-木4	教育と経済	松塚ゆかり
	夏-木2	中国の言語と文化	洪郁如
	夏-火4	英語圏地域文化論（イギリス）	吉野由利
	夏・冬-水2	まちづくり（2011夏・冬）	林大樹
	冬-火3	政治と社会	中北浩爾
	夏-金4	中国文学論	星名宏修

## 各学部連携科目群

頻度	曜日・時限	講義名	担当者	頻度
	商・発展	冬一月 4	消費文化論	越智博美
	経・基礎	夏一火・金 1	基礎ミクロ経済学	竹内 幹
	経・発展	冬一月・木 3	労働経済学	川口大司
	経・発展 *	冬一月・水 1	公共経済学	竹内 幹
	法・基礎	冬一月・水 2	憲法第一	只野雅人
	法・基礎	冬一火 4	地域交流ネットワーク論	吉野由利
	社・導入	夏一火 4	社会研究入門ゼミ	佐藤文香
	社・導入	冬一月 4	社会研究入門ゼミ	森村敏己
	社・導入	冬一木 2	社会研究入門ゼミ	伊藤るり
	社・基礎	夏一火 2	アメリカ社会史総論	貴堂嘉之
	社・基礎	夏一木 2	ヨーロッパ社会史総論	阪西紀子
	社・基礎	夏一木 4	社会調査論	小林多寿子
	社・基礎	夏一金 3	市民社会論	高田一夫
	社・基礎	冬一月 3	スポーツ社会学の基礎	坂上康博/坂なつこ/ 鈴木直文
	社・基礎	冬一水 2	社会学理論	多田 治
	社・基礎	冬一水 2	社会調査法	町村敬志
	社・基礎	冬一木 2	政治学	田中拓道
	社・基礎	冬一木 3	Social Sciences in English A	佐藤 裕
	社・基礎	冬一金 2	人間環境論	林 大樹
	社・発展	夏一月 2	国際社会学	伊藤るり
	社・発展	夏一水 2	比較政治	田中拓道
	社・発展	夏一木 1	国際政治社会学	佐藤 裕
	社・発展 *	夏一金 2	コミュニティ政策論	林 大樹
	社・発展 *	夏一金 3	環境教育学	関 啓子
	社・発展 *	冬一木 3	社会調査特問	木本喜美子
	社・発展 *	冬一金 3	社会文化論原典講読	洪 郁如
	社・発展 *	冬一金 3	福祉社会論	高田一夫

：講義全体をジェンダーの視点から構成する

：ジェンダーを講義の一つの柱とする

：ジェンダーについて 1 , 2 回取り上げる

は大学院との共修